

「土壌・地下水汚染対策技術に関するアンケート調査」について 記入要領

1. システム・プロセス名称

対策技術の通称等を記入して下さい。

2. 対策技術の分類

技術分類表（別表）から、該当する技術 No. を選択し、記入して下さい。対策技術が複数の技術の組み合わせの場合は、それぞれの技術 No. を記入して下さい。

その他の場合は、その技術名称を記入して下さい。

3. 対象媒体、対象物質

にチェックを入れるか、塗りつぶすか（ ）で、対象となる媒体、物質を選択して下さい（複数回答可）。リスト以外に対象となる媒体、物質がある場合は、その他に記入して下さい。

4. 適用条件

地層：適用可能な地層について、透水性、飽和状態の2つの観点から記入して下さい。

適用深度：対策技術を用いる上で、実用上適用可能な最大深度を記入して下さい。

作業スペース：対策設備の設置を行う場合、最低限必要な作業スペースを記入して下さい。

妨害物質：対策を進める上での妨害の有無について記入して下さい。ある場合は、妨害物質名、濃度、対策などを記入して下さい。

5. 装置・システム導入にあたっての注意事項

周辺環境への影響：騒音、振動、臭気の発生の有無とその程度を、廃棄物などについては、発生の有無とその対策を記入して下さい。

非意図的有害物質の発生：分解過程などで、他の有害物質が発生する可能性の有無と、その理由、対策を記入して下さい。

設備設置時の必要時間：対策設備等が装置やプラント類の場合にのみ記入して下さい。

6. コスト

濃度、汚染規模（面積、深さ）、電気代、廃棄物の処分費など代表的な条件で試算して下さい。

対策設備等の価格（イニシャルコスト）：対策設備等の導入時にかかる費用を記入して下さい。ただし、対策現場への装置の移送費等は除いて下さい。

維持管理費（ランニングコスト）：土壌・水・ガスの1 m³あたりの維持管理費用を記入して下さい。その際、活性炭吸着層等のカートリッジやその交換にかかる費用、発生する廃棄物の処理費用も含めて試算し、条件に記入して下さい。

7. 装置・システムの能力

対策設備等が装置類の場合にのみ記入して下さい。

設備の大きさ：平均的な汚染規模に対応可能な設備の大きさを記入して下さい。

対策規模：一般的な条件で対策可能な範囲（広さ）を記入して下さい。

処理能力：一般的な条件での1日あたりの土壌、地下水、ガスの処理能力を記入して下さい。

8. 適用濃度

適用可能な物質ごとに、適用濃度レベル及び処理後の濃度レベルを記入して下さい。

9. 技術の概要

使用している対策技術で、特殊な技術については、その原理を記入して下さい。（技術が複数の場合は、複数について記入して下さい。）

適用事例：実績がある場合は、当該対策技術の適用事例の件数について記入して下さい。また、「対策技術の適用事例（別紙）」に適用事例の概要（汚染物質、媒体（土壌、地下水等）、処理前濃度・処理後濃度、対策に要した期間、本事例の特徴、浄化対策を進める上で生じた問題等）を記入して下さい。

10. 論文又は発表資料名

当該対策技術に関して、学会での発表若しくは論文として公表されている場合は、その論文名、文献名、発表年などについて、記入して下さい。また、可能であれば学会発表要旨又は論文等を添付して下さい。